



一緒にキャリアの 樹を育てましょう!

市川 のり恵 ICHIKAWA Norie

内閣官房内閣人事局企画官

これまでのキャリアをふりかえて

昨今、「キャリア自律」という言葉が注目を浴びています。人生100年時代となった今、キャリアは生涯をかけて作り上げていくものになりました。自分のキャリアを振り返ってみると、ありがたいことに、程度の差はあれ、やってみたい!と希望した行政分野や業務を経験する機会をいただきましたし、予想外のポストや産休育休を通じて、新たな出会いや自分の強み弱みの発見がありました。

自らの幹となる興味・問題意識の軸を持ちつつ、各ポスト・ステージでの出会いを大切に、得られた経験を肥料とすることで、キャリアの幹は太く成長し、最終的には大樹になることができるのではないのでしょうか。私のキャリアからもお分かりのとおり、総務省では、国内外で幅広い経験を積むことができることは間違いありません。ぜひ一緒にキャリアという樹を育てていきましょう。



GRIPS (政策研究大学院大学)での教え子たちと



SIPA (コロンビア大学国際・公共政策大学院)の卒業式で

2022～現在 内閣官房内閣人事局企画官

国家公務員の働き方改革推進やマネジメント能力向上、人事評価制度などを担当しています。自分自身、管理職となり、プレーヤーからマネージャーとしての働き方への転換に試行錯誤していますが、子育てもマネジメントに通じるところがあるのではないかと考えています。チームが持てる力を最大限発揮できる働きやすい職場とは何かを考えながら、日々、担当業務に携わっています。

2018～2022 行政不服審査会事務局審査専門官、出向(政策研究大学院大学准教授)

行政不服審査会では、不服申立てされた事例を通じ、行政サービスが国民に届けられる局面での行政制度・運用の課題や審査会の答申による課題改善の可能性を学びました。大学では、教員として人事管理や行政管理に関する講義を担当し、諸外国の将来のリーダーとなる行政官である学生たちとの議論を通じて日本の人事行政への示唆をいただきました。

2017～2018 出産・育児休業

2014～2017 行政評価局行政相談課上席評価監視調査官、大臣官房秘書課課長補佐(ワークライフバランス推進担当)、大臣官房政策評価広報課課長補佐

育休から復帰後、仕事と子育てを両立する働き方を自らも模索していたところ、総務省のワークライフバランス推進担当の役目をいただきました。働き方改革は、育児期の職員だけでなく、全職員が創造的な仕事をするために不可欠であり、経営戦略として進めるべきものとのメッセージを当時の総務大臣が発信してくださったことを追い風に、省内の機運醸成など試行錯誤で取り組みました。

2013～2014 出産・育児休業

マルチタスクを効率よくこなすための優先順位付けの思考や子どもの様子を読み取る観察力・忍耐力を鍛えられました。子どもが生まれると行政サービスを受ける機会が増え、サービスの受け手となることで、国の企画立案においても、最終的な行政サービスの受け手の立場を想像する重要性を改めて感じました。

2010～2013 情報通信国際戦略局国際政策課課長補佐、情報流通行政局情報流通振興課情報流通高度化推進室、行政評価局行政相談課上席評価監視調査官

ICT政策の北米・欧州担当調整役として、国際会合の運営や協力の覚書締結など外国とのルール作りの醍醐味を経験するとともに、医療分野のICT利用促進を担当し、震災後カルテが失われた被災地復興施策として、県庁、大学、医師会による協議会の議論に参加し医療ネットワーク構築に携わりました。行政評価局では、国民の苦情を行政の改善につなげるヒントを学びました。

2008～2010 留学(米国コロンビア大学国際・公共政策大学院)

公共政策への熱意という共通点を通じて、多様なバックグラウンドを持つ同級生と学内外で交流・議論をする中で、公務全般や総務省所管行政について業務を離れた立場から考察することができた貴重な期間でした。大学ではグループワークが多かったため、相手を説得する術・交渉術の重要性や多様性への寛容さも学びました。

2003～2008 行政評価局総務課政策評価審議室、大臣官房企画課企画調査第一係、同第一係長、人事・恩給局給与第一係長

行政評価局、大臣官房企画課では、局内や省内の総合調整役として俯瞰的に局や総務省の業務を見ることを学びました。人事恩給局では国家公務員の給与法の改正に携わり、閣僚会議の運営、法制局審査、法案審議など、法律の制定過程のダイナミズムを経験しました。